

平成 25 年度 まちづくり活動助成団体

活動成果報告会

日時 平成 26 年 5 月 18 日 (日)
13 時 30 分～15 時 45 分 活動成果報告会
15 時 50 分～16 時 30 分 ポスターセッションによる交流会

会場 名古屋都市センター 11 階 ホール

平成 25 年度に「地域“魅力”アップ部門」と「まち夢工事部門」で助成を受けた団体が、まちづくり活動の状況や成果を発表する報告会を行いました。助成を受けた団体は以下の 10 団体です。

(発表順)

地域“魅力”アップ部門 (6 団体)

- ・ 佐屋街道に花と歴史をのこす会
- ・ あつた産業再発見マイスターの会
- ・ 長者町アートアニュアル実行委員会
- ・ 別小江みこし会
- ・ 久屋大通発展会
- ・ 名古屋活動写真

まち“夢”工事部門 (4 団体)

- ・ 長者町アートアニュアル実行委員会
- ・ 鳴子きずなの会
- ・ てんぱくプレーパークの会
- ・ えこども

開会、委員紹介



名古屋都市センターの職員による挨拶と会の進行についての説明の後、まちづくり活動助成団体の選考を行う「名古屋都市センターまちづくり基金運用委員会」の委員を紹介しました。



挨拶：青木参事



司会：常包課長

名古屋都市センターまちづくり基金運用委員会 委員（4名）



委員長

名古屋大学大学院
環境学研究科教授

西澤 泰彦 委員



副委員長

名古屋工業大学大学院
工学研究科准教授

石松 丈佳 委員



特定非営利活動法人
こどもNPO理事

田尾 幸子 委員



名古屋市住宅都市局
都市計画部長

浅井 邦彦 委員

公益社団法人名古屋青年会議所副理事長、乃一 剛英 委員は欠席しました。

団体による発表「地域“魅力”アップ部門」

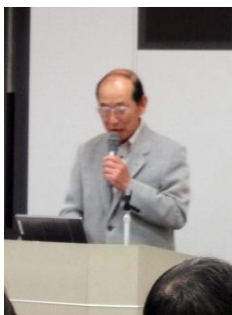


発表は、前方のスクリーンに資料映像を映しながら、発表者が活動内容を報告する形式で行いました。発表時間は各団体7分間です。1分前にタイムキーパーがベルを鳴らし、『あと1分です』と書かれた札を掲げます。終了時間になるとタイマーがなり、タイムキーパーが『終り』の札を掲げ、終了します。



発表の様子

1 佐屋街道に花と歴史を残す会



地元への愛着を深める目的で、佐屋街道にある植樹帯の除草・清掃や花植え、アメリカンフェンスの設置と、歴史案内板や石柱の設置などの活動を行った事を報告しました。

2 あつた産業再発見マイスターの会



白鳥庭園でのイベントへの出店、『あつた鶏飯』紹介パンフレットの作成、熱田区内ゆかりの食材を使った新しい練り物製品を考案・開発などを行った事を報告しました。

3 長者町アートアニュアル実行委員会



アートによるまちの活性化の継続を目的として、“おもてなし”をスローガンに、『おもてなし拠点』の新設と、『長者町音頭』の制作・発表などの活動を行った事を報告しました。

4 別小江みこし会



「自慢できるふるさとをつくってあげたい」をコンセプトに、子ども達に和太鼓・踊りを教えたり、祭りを開催して子供山車を巡行するなど地域の絆を深める活動を行った事を報告しました。

5 久屋大通発展会



久屋大通公園一帯の発展への貢献を目的として、ガイドブックの配布や、イベントを開催して自転車のマナーを広く周知させる活動を行った事を報告しました。

6 名古屋活動写真



堀川を題材としたドキュメンタリー映画『堀川物語～川と人と街』の制作および上映会の開催などを通して、堀川に関わる人々の思いや文化を伝える活動を行った事を報告しました。

質疑応答

「地域“魅力”アップ部門」の6団体すべてが発表を終えると、各団体の代表者が壇上に移動し、発表内容に基づいて質疑応答を行います。まず委員が各団体に質問をしました。



佐屋街道に花と歴史を残す会、長者町アートアニュアル実行委員会、久屋大通発展会の方へ

この部門は“地域”がキーワードになっているが、特に助成金を使って活動していった結果、地域とのつながりはどう変わりましたか？



佐屋街道に花と歴史を残す会

それまでは希薄だと思っていましたが、大勢の方がどんどん参加してくれました。通りかかった人が「皆で良い事をやっているね」と会員になって頂いた事が、涙が出るくらい嬉しかったです。他にも「会があるのは良いですね」「こういう事が出来たら良いな」という意見もありました。



長者町アートアニュアル実行委員会

小さなエピソードはたくさんあって、一つ一つの積み重ねの結果として地域の魅力につながっていると感じています。一つあげると、最初はお客さんとして『おもてなし拠点』に遊びに来てくれていたまちの人が、だんだんとよその人に説明や接客をしてくれるようになった事で、よそから来た人がまちの人と実際に話した事が記憶に残っていて、まちの人もそれが楽しいと感じるという事ができたのがとても良かったと思っています。



久屋大通発展会

毎月イベントを行っています、出演される方で集客が上下する事はなく、徐々に人が増えていった事で、おそらくは地域の方も少なからず足を運んでくれているのと、路上の自転車の数が減っている事から地域への協力ができたと感じています。また、普段使わない場所を使う事で地域の活性化をこの一年を通してやれてきたのではないかと思います。ただ一点あげるとすれば、もう少し年齢が高い方々にも足をとめてもらう時間を増やすのが今後の課題です。

別小江みこし会 の方へ

地域の子供達は、具体的にどのくらいの割合で地域づくりに参加されているのでしょうか？
また、まだ参加していない人たちへの呼びかけは、何か工夫をしているのでしょうか？



別小江みこし会

城北学区の子供達を対象にしていますが、全校でおおよそ400人程度、その親子とまわりの小学校中学校を含めて考えると1000人くらいになります。表に出ない人を誘うのは難しいのですが、まず祭りを通して楽しさをアピールし、直接声をかけあって、その人を頼れば仲間に入ってくれるのかな、というところで今後は工夫していきたいと思っています。

あつた産業再発見マイスターの会 の方へ

同じような活動をしているところと横の繋がりを持ち、名古屋全体へとつなげていきたいというお話がありましたが、何か具体的に考えている事があれば教えていただけますか？



あつた産業再発見マイスターの会

「あつた鶏飯」という考えがもととなって、名古屋市の各区がそれぞれの地産のものについて考え始めています。白鳥庭園の協力で、名古屋ご当地グルメというイベントをやって頂いた時に、熱田の他に中区、緑区が出店しました。ぜひこういった、お祭りのような皆が集まって楽しくやれる、横のつながりというものを考えていきたいと思っています。

名古屋活動写真 の方へ

地域の人たちとの関わりを示すエピソードがあれば紹介してほしいと思います。



名古屋活動写真

地元の方、堀川周辺の人たちが映画に参加しています。映画を観た人たちがその活動を知って、一人でも多くの方が堀川に足を運ぶという事には確実に繋がったという実感はあります。

続いて、会場にいる方々から質問を受け付けました。多くの方から挙手がありましたが、時間に限りがあり、3名の方の質問に3団体が答えました。まちづくり活動をする立場から、団体の活動内容についてより詳しい情報を求める内容の質問が多くありました。

■ 団体による発表「まち“夢”工事部門」

「地域“魅力”アップ部門」と同じ形式で発表を行いました。

発表の様子

1 長者町アートアニュアル実行委員会



活動スペースの看板・インフォメーションラックの設置や、まちのオープンスペースに設置するベンチを制作するなどの活動を行った事、また予定していた壁画は制作出来なかった事を報告しました。

2 鳴子きずなの会



鳴子池歩道沿いに花壇を作って、種から育てた花苗を移植したり、活動拠点となる花苗ハウスをつくるなど、まちを豊かで潤いのあるものにする活動を行った事を報告しました。

3 てんぱくプレーパークの会



天白公園の中にあるてんぱくプレーパークに、誰もが利用でき、大人も子供も多目的に使用できる、また活動拠点ともなる小屋をつくった事を報告しました。

4 えこども



「バイオトイレ」を作るにあたり作業工程の一つ一つに子ども達と一緒に関わりをもち、東谷山の木の実を壁に埋め込むなど使用する方々にも愛着が持てる工夫を施した事を報告しました。

■ 質疑応答



「地域“魅力”アップ部門」と同じく、「まち“夢”工事部門」の4団体すべてが発表を終えたあと、各団体の代表者が壇上に移動して質疑応答を行いました。

長者町アートアニュアル実行委員会 の方へ

申請していた壁画の制作が結果としてできなかった事について、想定外だった事や、反省すべき点で言える事はありますか？





長者町アートアニュアル実行委員会

考えていたよりも、まちの壁に特定の絵を描いて、それを5年間維持していく事や、アーティストの主張とまちの都合との調整が難しかったです。また、誰がどのような絵を描くかという事も想定が足りなかったというのが正直なところです。申し訳ありませんでした。

えこども の方へ

バイオトイレの中には、ほとんど管理をしなくて良いという話がありましたが、日常の管理はどうされているのでしょうか？また、オープンしてから今までの使われ方はどうでしょうか？



えこども

日常的な管理に関しては、東谷山のふもとに住んでいる方が申し出てくれて、毎日山に登って掃除をしてくれています。東谷山で定期的に活動をしているいくつかの団体も清掃をしています。扱われ方ですが、登山客の団体が、洋式のバイオトイレを和式トイレの用に使用していたのでびっくりして、その後、使用方法の表示の取り付けをしました。

鳴子きずなの会 の方へ

工事だけではなく人づくりもテーマだという事でしたので、新たな担い手を発掘されるでしょうし、次の新たな構想も描いているのではないかと思いますので、お聞かせください。



鳴子きずなの会

超高齢化地域ですから、高齢者の方がなんとかやれる事、それから人を育てる事。花は地域にとって必要ですから、その花を種から育てる事がいかに大事か。これから若い世帯が入ってくるので、まちづくりという視点で取り組んでいきたいと思えます。これまでは個別の物事でしたが、このまちの将来をどうしたら良いか。最終的には人だから。人もやっぱり物事をつくらない限りは、物事は進まないの、その物事をこれからつくりあげていきたい。

てんぱくプレーパークの会 の方へ

前回のプレゼンで、小屋の中での活動も視野に入れて計画されているとありましたが、その辺りを含めて会としてはどのように利用していかれるのでしょうか？



てんぱくプレーパークの会

子ども達の遊び道具が入る物置と、授乳スペースや小さい子どもが寝てしまった時、特に雨の日などは一時お昼寝ができる場所にしていこうかと思っています。また、リスクとハザードという考え方がありますが、あえてはしごの一段目を高くして、登れる子どもはそれを使って屋根に上がるなど、子ども達の遊びの場、憩いの場としてこれから使われていく事を期待しています。

続いて、会場にいる方々から質問を受け付けましたが、時間の都合により、1名の方のみとなりました。まちづくりをしていくにあたって、行政との関わり方を知りたいといった内容の質問に3団体が答えました。

委員長による講評

すべての発表を通して、西澤委員長より講評をいただきました。



気が付いた事が6点あります。

まず1つ目は、地域との繋がり。それがまちづくりの基本であるという事で、基本に忠実であるという事が非常に大事だと良く分かりました。

その地域との繋がりには先があって、地域とは何か？どこで区切れればいいのか？というのが一つ課題として残っています。公開審査の時にも質問が出たと思いますが、それは活動する団体の皆さんが自分の地域を決めれば良いのではないかと、活動が可能ならどんどん地域という概念が広がって行って構わないと思います。自分たちの活動を狭める必要はありません。

2つ目は、ふるさと自慢という言葉が出てきましたが、これはたいへんよいことだと思います。ただし、それは自慢する事が目的ではなくて、そこに楽しい事があるとか自分の生活が良くなっているから自慢できるという事だろうと思います。「笑顔がいちばん」の基本はここにあります。

3つ目は、経済効果の問題が質問で出ていましたね。結果として経済効果が生まれる事はあるだろうと思いますが、活動を始める時に、即効的な経済効果を狙って活動することはやめたほうがいいでしょう。それは、非常に怖いことです。答えた側にも手作りの良さという言葉があったと思いますが、一方で経済効果を考えた時に手作りの良さをどれだけ追求できるか。難しいですが、今の段階でどちらを優先するかと問われれば、やはり手作りの良さを優先して、結果として経済効果が生まれると考えていた方が、活動は長続きするのではないかと私は思います。一方では、これは一般解ではなく特殊解の集合でしかない。活動してみればすぐ分かりますが、一般解は適用できない。それぞれの皆さんが活動している地域での特殊解、それが会だと思っています。

4つ目。一つ目の所で活動の物理的な広がりを言いましたが、もう一つは人の広がりという問題があります。思わぬところで思わぬ人が出てきて想定外の事が起きるといった話が報告でもありましたが、これは儲けもので、起きるものと思えば良いわけですね。起きたことを活用するという姿勢が重要でしょう。それは今後の進行に非常に役立つのではないかと思います。

5つ目。まちづくりの多様化を今日改めて感じました。問題は、皆さんは多様に考えていますが、役所は多様に対応していないという事ははっきり分かりました。役所はすぐには変わらないと思いますが、ぜひお願いしたいのは、役所の方は全員まちの変化に敏感になってほしい。許認可の問題が色々ありますが、それは単純に役所の理屈で市民側に責任はないのです。それはまた役所の方で考えてほしいと思います。

6つ目は、試行錯誤の結果として、発想の転換は必要だという事を改めて思いました。トイレでうどんを食べると良い事があるという話がありましたが、うどんを食べられるトイレとは大したものだと思います。トイレが汚いものだというのは間違っていて、トイレは本来綺麗なものなのです。これは、トイレの維持管理の基本を示したものに他なりません。屋根に乗る、乗らないという話も、人間は本来屋根に乗る事を考えていた筈で、発想の転換というのは大事だなというのが分かりました。

以上を受けて、3つの提言をします。

1つ目は、最初の方の発表で「歴史を縦軸、地域を横軸」という言葉がありましたが、これは奥深い言葉で、何を言っているかということ、モノも人も歴史の蓄積の上にいることを示しています。それを認識してもらい。これから活動していく中で、今までの事とこれからやろうとしている事を連動させて考えてほしい。今まで不平不満があったかもしれませんが、振り返ってみるときっと良い事もあった筈で、それを連動させて考えてほしい。

2つ目は、発表に「表に出てこない人をどうしたら良いか」という話があったと思います。これは大変ですが、ダメ元なので慌てない。無理やり引っ張りだすのではなく、そのうち来てくれるだろうと性善説に立って、気長に構えた方が良いと思います。

最後は、今日何回も言葉が出ていますが「まちづくりは人づくりだ」と、その通りだと思います。両方がまちの資産であるし、それは人にとって資産です。自分が持っているものだけが資産ではなく、皆さんによって作られた「まち」が個人にとっての資産だと、だからルールを守らなければいけないし、「まち」にも貢献する意味が生まれます。

もう一つ考えてほしいのは、皆にとって個人は資産であるし、個人にとっても皆は資産であるというふうに、両方で考えて頂けると活動の幅も広がるのではないかと思います。

ポスターセッションによる交流会

報告会のあとは、各団体の活動内容をまとめたボードを鑑賞しながら情報提供や意見交換ができる交流会を行いました。参加者同士が体験を語りあったり、報告会ではできなかった質問に答えるなど、自由な交流の場となりました。



閉会

16:30にポスターセッション終了のアナウンスを行い、この日の全てのプログラムを終了しました。参加された方にはアンケートにご協力をお願いしました。その中で、「地域の人とのつながりを持っていく事に関心を持ちました。」「いろいろな活動があり、意見交換もあるのでとてもよい会だと感じました。」「多くの部分でとても参考になりました。いつかは発表する場になれるといいかなと思います。」などの感想がありました。